

## 《履修上の留意事項》【遠隔授業のみ実施】

耳鼻咽喉科学は耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、気管、食道、頭頸部を受持っているため歯科学と密接な関係を有している。しかし、この広い領域を短時間に講義することはできないので授業は歯科、口腔外科に特に関連する部分を中心に、臨床を主体として以下の要領で行うことにする。

《担当者名》教授 / 西澤 典子

## 【概要】

歯科医の臨床において必要な臨床医学的事項を参照し、歯科臨床に応用するために、耳鼻咽喉科領域の解剖、整理を復習し、代表的な耳鼻咽喉科疾患についてその定義、疫学、症候論、治療法について教科書の記載を手掛かりに、簡潔なまとめを行う。

## 【学習目標】

耳科、鼻科、口腔咽頭科、喉頭科学領域の解剖整理を臨床症状と関連づけて説明する。  
 代表的な耳疾患について、定義と難聴、めまいの病態、治療を説明する。  
 代表的な鼻、副鼻腔疾患について、定義と病態、治療を説明でき、また、歯科疾患との関連を説明する。  
 代表的な口腔、咽頭疾患について、定義と病態、治療を説明でき、歯科的治療の守備範囲と多科連携について正しく計画する。  
 代表的な喉頭疾患について、定義と病態、治療を説明する。

## 【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	耳科学総論	聴器、平衡器、顔面神経の解剖生理を復習する。	西澤 典子
2	耳科学各論	聴覚障害を中心に、平衡、顔面神経疾患など耳科疾患の病態学を総覧する。	西澤 典子
3	咽喉頭科学	咽頭喉頭の解剖を復習し、発声発語機能との関連について考察する。器質的疾患を中心に咽喉頭の病態学を総覧する。	西澤 典子
4	鼻科学	鼻副鼻腔の解剖生理を復習し、歯科領域との関連をふまえて鼻副鼻腔疾患を総覧する。	西澤 典子

## 【評価方法】

定期試験 (100%)

## 【備考】

参考書 : 久保 武 ほか 著 耳鼻咽喉科学 第2版 金芳堂 (Minor Textbookシリーズ)

その他 : 4回の講義で耳鼻咽喉科領域のすべてを講義することは難しい。教科書は特に指定しないが、医科用の教科書を参考に学習し、知識を補うことを勧める。

## 【学習の準備】

予習として、次講義内容を自分なりに参考書などで確認する (30分)

復習として、前回内容について疑問点をまとめる。 (30分)

## 【ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) との関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を耳鼻科学の観点から修得する (専門的実践能力)。

DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を耳鼻科学の観点から身につける (プロフェSSIONナリズムとコミュニケーション能力)。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を耳鼻科学の観点から身につける (自己研鑽力)。

DP4. 多職種 (保健・医療・福祉) と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を耳鼻科学の観点から修得する (多職種が連携するチーム医療)。

DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を耳鼻科学の観点から修得する (社会的貢献)。

## 【実務経験】

西澤 典子（医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

耳鼻咽喉科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、歯科医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。